

平成 31 年 4 月 1 日

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 地域イノベーション学研究科
氏 名 矢野竹男

活動テーマ	地域に根ざした人的並びに生物的資源の有効活用 -大台町の地域観光施設を中心拠点とした健康長寿対策に関わる人材育成・再教育の支援-
実施期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	(1) 具体的な活動実施内容 奥伊勢 BSC は三重大学地域研究支援部門ならびに地域イノベーション学研究科との共催で、H24(2014)年から、大台町にある奥伊勢フォレストピアにおいて、多分野の人材との相互交流・連携を通しての人材育成・再教育を目的としたフォーラム（奥伊勢 Forum, 共通テーマ：健康科学の基盤となる資源とその有効活用）を毎年開催している。奥伊勢 Forum の目的の一つは、拠点活動地域の大台町の高齢者健康福祉対策への支援で、H28 年 8 月に奥伊勢バイオサイエンスセンターが運営機関となっている農水省 知の集積プラットフォーム「農・食&健康 Valley プラットフォーム」を設立し、10 月に開催した第 5 回奥伊勢 Forum において、大台町と連携してワークショップ『運動と食で脳を整える』を実施した。今回の第 7 回奥伊勢 Forum（テーマ：Communication(細胞間&ヒト同士)そして地域未来）で矢野が Facilitator を務め、大台町の職員、保健師、管理栄養士の方々及び大学教員をパネリストととし「地域未来」と題したパネル討論会を行った。 (2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり） 奥伊勢 Forum の活動が契機となり、奥伊勢バイオサイエンスセンターが運営機関となり大台町ならびに県内企業等を構成メンバーとして、農水省知の集積プラットフォーム「農・食&健康 Valley プラットフォーム」を設立した。これまでの大台町における我々の活動は「ヘルスツーリズム構想」へと集約されつつある。 参考：http://okuise-bsc.com/archives/13792/ プラットフォーム構成メンバー (1) (一社) 奥伊勢バイオサイエンスセンター、(2) 辻製油(株)、(3) 三重大学社会連携研究センター研究展開支援拠点地域研究支援部門、(4) 株宮川観光振興公社、(5) 株宮川物産、(6) 株道の駅奥伊勢おおだい、(7) 大台町報徳診療所、(8) 株ルセット、(9) ORIGAMI Lab. 合同会社、(10) 井村屋株式会社、(11) 有 二軒茶屋餅角屋本店、(12) 三重県農業研究所、(13) 三重大学大学院生物資源学研究科栄養化学研究室、(14) 株伊勢萬、(15) 株Verde 大台ツーリズム、個人会員 1 名 (3) 共同実施者との連携状況 三重県大台町において、年 1 回、大台町と連携し、大台町営の宿泊施設を

活用し、地域の食と地域の健康をテーマとして、「奥伊勢 Forum（主催：奥伊勢バイオサイエンスセンター、共催：三重大学地域研究支援部門）」をこれまで、7回開催しており、今後も継続していく予定である。
今後の予定

2019年6月21日 奥伊勢 BSC 講演会（津市内の予定）

2019年10月26日 奥伊勢 Forum（場所は未定）

（4）大学の教育・研究成果のかかわり

7回(H30)奥伊勢 Forum において学生企業若手研究者を対象として「Communication：異分野/文化交流のための手法と実践」と題してワークショップを実施し、他大学との学生ならびに企業若手研究者間の交流を行った。概要は参加学生（内留学生5名）、企業の若手研究開発スタッフ（内外国籍1名）を3グループに分け、話題提として、三重大医学部学の島岡先生には「研究者間の Communication その意義」大阪産業大学建築環境デザイン工学科壇上先生には「Communication の手法論」の講演の後、Table Work 方式で共同研究計画作成や Venture 事業構想の考察・プレゼンテーションの実践を行った。

（5）イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

奥伊勢 BSC 講演会（H30年6月12日）

津市 岡三証券神楽ドーム 50名（スタッフ含む）

奥伊勢 Forum（H30年10月26日、27日）

大台町 奥伊勢フォレストピア 50名（スタッフ含む）

（6）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

- 1) 三重大学・大台町・(株)伊勢萬・(株)近鉄リテーリングと連携し三重大学の産学官連携商品として「奥伊勢ゆずハイボール」を開発し現在も継続販売している。

(<http://www.kintetsu-rs.com/pdf/170721irodori.pdf>).

- 2) 関連論文：中山保之・矢野竹男：大台町産ゆず果汁を用いた地域イノベーションの事例 地域イノベーション学会誌, 7, 18-21 (2018)
- 3) 奥伊勢 Forum での交流を契機に、企業の Know How を活用した未利用資源から食用加工品の開発に関する三重大学との共同研究に繋がった。
- 4) 奥伊勢バイオサイエンスセンターが運営機関となっている農水省 知の集積プラットフォーム「農・食&健康 Valley プラットフォーム」で三重大学と県内企業とでコンソーシアムを作り、未利用資源を活用したプロジェクトを H31 年農水省イノベーション創出研究事業・基礎研究ステージへ課題申請を行う予定
- 5) 7回(H30)奥伊勢 Forum の講師をお願いした医学部島岡教授と大台町健康福祉課・保健師の方々との間で、地域住民の健康維持に関する調査研究に関する交流が始まった。

7回(H30)奥伊勢 Forum の概要

主催：奥伊勢 BSC（Bio-Science Center）

テーマ：“Communication(細胞間&ヒト同士)そして地域未来”

共催：三重大学推進機構地域支援部門

会場：奥伊勢フォレストピア（大台町）

日程：218年10月26日（金）午後12時半～27日（土）13時
 参加者（概数）：①藤田保健衛生大学大学院保健医療学科の教官(3名)院生(4名、内留学生2名)、②三重大学バイオ系教官(4名)学生/院生(6名、内留学生2名)、大阪産業大学教官(1名)学生/院生(1名、内留学生1名)③県内企業の経営陣(3名)・研究開発スタッフ(7名、内外国籍1名)、④特別招待者(7名)、⑤大台町関係者(5名)の総勢40名程度
 7回(H30)奥伊勢 Forum・ワークショップの様子

